Citation 4

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-310521

(43)公開日 平成11年(1999)11月9日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号		FΙ		
A61K 7/13			A61K	7/13	
7/135				7/135	
D06L 3/10			D06L	3/10	
D06P 1/19			D 0 6 P	1/19	
1/32				1/32	
		審查請求	未請求 請求	求項の数20 OL (全 20 頁) 最終頁に続く	<
(21)出願番号	特願平11-44197		(71)出願	人 591011627	
				ウエラ アクチェンゲゼルシャフト	
(22)出顧日	平成11年(1999) 2月23日			WELLA AKTIENGESELLS	s
				CHAFT	
(31)優先権主張番号	19810688. 2			ドイツ連邦共和国、ダルムシュタット、・	ベ
(32)優先日	1998年3月12日			ルリーネル アレー 65	
(33)優先権主張国	ドイツ (DE)		(72)発明	者 マニュエラ クンツ	
				スイス国、ツェーハー - 1723 マーリー、	
				ルート デュ コンフィン 18	
			(72)発明	者 ドミニク ル クリュー	
				スイス国、ツェーハー - 1723 マーリー、	
				ケミン エピネット 13	
			(74)代理/	人 弁理士 武石 靖彦 (外2名)	
				最終頁に続く	<

(54) 【発明の名称】 繊維を染色及び脱色するための薬剤

(57)【要約】

【目的】 繊維、特に毛髪を脱色するための薬剤、このような薬剤の使用による繊維の脱色方法、並びに繊維、特に人の毛髪の染色とその後の脱色のための多成分キットを提供する。

【解決手段】 本発明の脱色剤は、a)少なくとも1種類のリダクトン及び/又は少なくとも1種類のチオール及び/又は少なくとも1種類の亜硫酸塩と、b)少なくとも1種類の α -オキソカルボン酸との組み合わせを含み、本発明の脱色方法においては、このような脱色剤が使用される。又、本発明の多成分キットは、繊維上に着色を生じさせるための薬剤と、この繊維を脱色するための本発明の薬剤とを含む。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 酸化染料および/または直接染料により 染色された繊維を還元脱色するための薬剤であって、

a) 少なくとも 1 種類のリダクトンおよび/または、少なくとも 1 種類のチオール、および/または少なくとも 1 種類の亜硫酸塩と、b) 少なくとも 1 種類の α - オキソカルボン酸またはそれらの生理学的に温和な塩との組み合わせを含むことを特徴とする薬剤。

【請求項2】 a)少なくとも1種類のリダクトンと、 少なくとも1種類のチオールと、少なくとも1種類の亜 10 硫酸塩、及び b)少なくとも1種類の α - オキソカルボン酸またはそれらの生理学的に温和な塩との組み合わせを含むことを特徴とする請求項1に記載の薬剤。

【請求項3】 前記リダクトンが、アスコルビン酸、イソアスコルビン酸若しくはこれらの塩およびエステル、ヒドロキシプロパンジアール、2,3-ジヒドロキシ-2-シクロペンテン-1-オン、および上記化合物の混合物から選択されたものであることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の薬剤。

【請求項4】 前記アスコルビン酸またはイソアスコル 20 ビン酸が、アルカリ金属アスコルベート、アルカリ土類 金属アスコルベート、アルカリ金属イソアスコルベート およびアルカリ土類金属イソアスコルベートと、酸とからその場で発生されたものであることを特徴とする請求 項3に記載の薬剤。

【請求項5】 前記チオールが、システインまたはその塩、N-アセチルシステイン、システアミンまたはその塩、メルカプトアセトアルデヒド、ペニシルアミン、グルタチオン、ホモシステインまたはその塩、およびカルシウムチオールグリコレートから選択されたものである 30 ことを特徴とする請求項1または請求項2に記載の薬剤。

【請求項6】 前記亜硫酸塩が、アルカリ亜硫酸塩およびアルカリ土類亜硫酸塩から選択されたものであることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の薬剤。

【請求項7】 前記 α -オキソカルボン酸が、グリオキシル酸、 α -ケトグルタル酸、オキサル酢酸、ピルビン酸および上記化合物のアルカリ塩またはアルカリ土類塩から選択されたものであることを特徴とする請求項1または請求項2に記載の薬剤。

【請求項8】 前記リダクトンが $1\sim50$ 重量%の量に て含まれていることを特徴とする請求項 $1\sim$ 請求項7の いずれか1項に記載の薬剤。

【請求項9】 前記チオールが0.1~10重量%の量にて含まれていることを特徴とする請求項1~請求項8のいずれか1項に記載の薬剤。

【請求項10】 前記亜硫酸塩が0.001~5重量% の量にて含まれていることを特徴とする請求項1~請求項9のいずれか1項に記載の薬剤。

【請求項11】 前記α-オキソカルボン酸またはそれ so 色を生じさせるための薬剤と、当該繊維を脱色するため

らの生理学的に温和な塩が、0.1~10重量%の量にて含まれていることを特徴とする請求項1~請求項10のいずれか1項に記載の薬剤。

2

【請求項12】 溶液、エマルジョン、泡、クリーム、ゲル、粉末、顆粒として、または発泡錠剤として存在することを特徴とする請求項1~請求項11のいずれか1項に記載の薬剤。

【請求項13】 p H値が1.8~6であることを特徴とする請求項1~請求項12のいずれか1項に記載の薬

【請求項14】 繊維、特に髪を染色および脱色するための多成分キットであって、成分(I)としての、繊維を酸化染色または非酸化染色するための薬剤と、成分

(II) としての、請求項1~請求項13のいずれか1項 に記載の色を還元脱色するための薬剤とを含むことを特 徴とする多成分キット。

【請求項15】 前記成分(I)が、酸化剤を添加した場合に酸化染料を形成する染料前駆体を主薬とする染色キャリア物質を含むことを特徴とする請求項14に記載の多成分キット。

【請求項16】 前記成分(I)がさらに少なくとも1 種類の直接染料を含むことを特徴とする請求項15に記載の多成分キット。

【請求項17】 前記成分(I)が、直接染料を主薬とする非酸化染色剤であることを特徴とする請求項14に記載の多成分キット。

【請求項18】 酸化染料および/または直接染料の組み合わせで染色した繊維を還元脱色するための方法であって、請求項1~請求項13のいずれか1項に記載の調合物を5~60分間、20~50℃の温度で繊維に作用させることを特徴とする方法。

【請求項19】 酸化染料および/または直接染料の組み合わせで染色した繊維を還元脱色するための方法であって、少なくとも1種類のリダクトンおよび/または、少なくとも1種類のチオール、および/または少なくとも1種類の亜硫酸塩とを含む調合物を5~60分間、20~50℃の温度で繊維に作用させ、引き続いて、当該繊維を、α-オキソカルボン酸を含んだ洗滌液で処理することを特徴とする方法。

【請求項20】 請求項1~請求項13のいずれか1項 に記載の薬剤を用いた脱色に続いて、前記繊維を、α-オキソカルボン酸を含んだ洗滌液で処理することを特徴とする請求項18に記載の方法。

【発明の詳細な説明】

[0001]

【発明の属する技術分野】本発明は、繊維を脱色するための薬剤、このような薬剤を使用する繊維の脱色方法、並びに、繊維、特に人毛の染色とその後の脱色のための多成分キットに関し、この多成分キットは、繊維上に着色を生じさせるための薬剤と、当該繊維を脱色するため

の本発明の薬剤とを含む。

[0002]

【従来の技術】酸化染料は、比較的多量のグレー部分を 覆うのに好適であり、この際、グレー部分が50%まで である場合に使用される酸化染料は、一般に酸化色調剤 (oxidative Toenungen) と呼ばれ、一方、グレー部分が 100%まで、または「ヘラー染色(Hellerfaerben、 髪を明るい色調に色付けすること)」の場合に使用され る酸化染料は、一般に酸化着色剤(oxidative Farben)と 呼ばれる。

【0003】直接染料、特に二トロ染料は、非酸化染色剤(いわゆる色調剤)において広く使用されている。それらはわずかな量で髪に浸透して、少なくとも髪の表面を直接染色できる。このような色調剤は髪に非常に優しく、しかも、一般に複数回の洗髪に耐え得る。

【0004】同様に、直接染料、特にニトロ染料は、所 定の色合いを得るため、あるいは染色を強めるために酸 化染色剤中にしばしば添加される。

【0005】一般に、毛髪において酸化的に生じる有色のポリマーは、水、シャンプー、または光などの外的影響に対し、非常に色褪せしにくいことが知られている。染色技術によっては、これらは、一般に次の調髪まで髪に残るようにしっかりと固着する。この着色の脱色を望む場合には、ホルムアルデヒド・スルホキシレート、過酸化水素、または過酸化水素付加化合物などの比較的腐食性の化学薬品を使用しなければならない。確かに顕著な脱色を行うことは可能であるが、健康に害があるか、あるいは、毛髪を傷つけることになる。

【0006】一般に、非酸化の色調を部分的に脱色する ことは、複数回の洗髪によっても可能であるが、この方 法では、毛髪の色を、目的とする色まで完全に即座に除 去することは不可能である。

【0007】好ましい毛髪着色は短時間で得られるが、酸化染色の場合にも非酸化染色の場合にも、温和で優しい条件の下で毛髪の色を脱色することには、従来からの未解決の課題がある。

【0008】本発明に従って上記の課題は、a)例えばアスコルビン酸などの少なくとも1種のリダクトン(Re duktons, reductone)、および/またはチオール類、および/または亜硫酸塩と、b)少なくとも1種類の α - オキソカルボン酸またはそれらの生理学的に温和な塩との組み合わせを添加することによって解決される。

【0009】毛髪用保護剤または染毛剤へのアスコルビン酸の添加は公知である。例えば、EP-PS第0401454号には、酸化処理後の人毛に残留した過酸化水素の残部を、アスコルビン酸の水性溶液で除去することが記載されている。この方法の場合、アスコルビン酸を含む発泡錠剤(Brausetabletten)が好ましく、この発泡錠剤は、使用する直前に水に溶解してから毛髪洗浄剤に添加される。

【0010】さらに、DE-OS第1444216号においては、アスコルビン酸が液体の染毛剤中に添加されており、他の不安定な液体薬品が長持ちするようにされている。DE-OS第3642097号に記載されている酸化染毛剤も、安定化剤としてアスコルビン酸を含んでいる。さらに、繊維、例えば人毛の酸化染色を還元脱色するのにも、アスコルビン酸が好都合に使用できるということは驚くべきことである。

[0011]

【発明が解決しようとする課題】本発明の対象は、繊維、特に毛髪の染色とその後の脱色のための多成分キットであって、この多成分キットは、成分(I)として、繊維、特に人の毛髪を酸化的に若しくは非酸化的に染色するための薬剤と、成分(II)として、この色を還元脱色するための薬剤とを含有し、成分(II)の薬剤が、a)少なくとも1種のリダクトンおよび/またはチオールおよび/または亜硫酸塩と、b)少なくとも1種のα・オキソカルボン酸又はその生理学的に温和な塩とを含むことを特徴とする。

【0012】DE-OS第4216667号から、残った過酸化水素を毛髪から除去するために、 α -ケトジカルボン酸類(例えば α -ケトグルタル酸)またはその生理学的に温和な塩が使用されることが知られている。更にJP-OS第63-101307号から、細胞活性化剤として、毛髪生長促進のために、例えば α -ケトグルタル酸を使用することも知られている。

[0013]

【課題を解決するための手段】一般に、本発明の多成分キット中に含まれる酸化染色を生じさせるための薬剤(成分(I))は、2つの成分、すなわち染色キャリア物質(Farbtraegermasse)(この染色キャリア物質(kup plersubstanz) およびカップラー物質(kup plersubstanz) と呼ばれる染料前駆体(Farbstoffvorstu fen)と、必要に応じて添加される非酸化染料とを含むものである)と、酸化剤(この酸化剤は、使用直前に酸化染料を形成するために添加されるものである)とからなる2成分の混合物から構成されており、一方、本発明の多成分キット中に含まれる非酸化染色を生じさせるための薬剤(成分(I))は、一般に、単一成分調合物の形態で存在する。

[0014]

【発明の実施の形態】本発明の多成分キットは、酸化染色の場合、染色キャリア物質中に顕色物質として、酸化染料の形成に好適な少なくとも1種類の染料前駆体を含んでいる。このような物質としては、好ましくは、1,4・ジアミノベンゼン(p・フェニレンジアミン)、1,4・ジアミノ・2・メチルベンゼン(p・トルイレンジアミン)、1,4・ジアミノ・2,6・ジメチルベンゼン、1,4・ジアミノ・2,5・ジメチルベンゼン、1,4・ジアミノ・2,3・ジメチルベンゼン、2

- クロロ・1, 4 - ジアミノベンゼン、4 - フェニルア ミノアニリン、4-ジメチルアミノアニリン、4-ジエ チルアミノアニリン、4 - 〔ジ(2 - ヒドロキシエチ ル) アミノ〕 - アニリン、4 - 〔(2 - メトキシエチ ル) アミノ〕 - アニリン、4 - 〔(3 - ヒドロキシプロ ピル) アミノ〕 - アニリン、1, 4 - ジアミノ - 2 -(2-ヒドロキシエチル) - ベンゼン、1, 4-ジアミ ノ・2・(1・メチルエチル)・ベンゼン、1、3・ビ ス〔(4アミノフェニル)(2-ヒドロキシエチル)ア ミノ〕 - 2 - プロパノール、1, 8 - ビス(2, 5 - ジ 10 アミノフェノキシ) - 3, 6 - ジオキサオクタン(dioxa octan)、4 - アミノフェノール、4 - アミノ - 3 - メチ ルフェノール、4・メチルアミノフェノール、4・アミ ノ・2・(アミノメチル)・フェノール、4・アミノ・ 2 - 〔(2 - ヒドロキシエチル) - アミノ〕メチルフェ ノール、4-アミノ-2-(メトキシメチル)-フェノ ール、4-アミノ-2-(2-ヒドロキシエチル)-フ ェノール、5-アミノ-サリチル酸、2,5-ジアミノ ピリジン、2,4,5,6-テトラアミノピリミジン、 2, 5, 6 - トリアミノ - 4 - (1 H) - ピリミドン(p 20 yrimidon) 、4,5-ジアミノ-1-(2-ヒドロキシ エチル) - 1 H - ピラゾール、4, 5 - ジアミノ - 1 -(1 - メチルエチル) - 1 H - ピラゾール、4, 5 - ジ アミノ - 1 - 〔(4 - メチルフェニル) メチル〕 - 1 H - ピラゾール、1 - 〔(4 - クロロフェニル) メチル〕 - 4, 5 - ジアミノ - 1 H - ピラゾール、4, 5 - ジア ミノ・1・メチル・1 H・ピラゾール、並びに2・アミ ノフェノール、2-アミノ-6-メチルフェノール、2 - アミノ - 5 - メチルフェノール、および/または上記 物質の塩が挙げられる。

【0015】さらに、この染色キャリア物質は、酸化染 色である場合に、酸化染料を形成するのに好適な少なく とも1種類のカップラー物質を含んでいる。このような 化合物としては、芳香族性のm - ジアミン類、m - アミ ノフェノール類、ポリフェノール類、またはナフトール 類が挙げられる。さらに好ましくは、N - (3 - ジメチ ルアミノフェニル) - 尿素、2,6 - ジアミノピリジ ン、2-アミノ・4-〔(2-ヒドロキシエチル)アミ ノ〕 - アニソール、2, 4 - ジアミノ - 1 - フルオロ -5 - メチルベンゼン、2, 4 - ジアミノ - 1 - メトキシ 40 - 5 - メチルベンゼン、2, 4 - ジアミノ - 1 - エトキ シ-5-メチルベンゼン、2,4-ジアミノ-1-(2 - ヒドロキシエトキシ) - 5 - メチルベンゼン、2, 4 - ジ〔(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕-1,5-ジ メトキシベンゼン、2,3-ジアミノ-6-メトキシピ リジン、3-アミノ-6-メトキシ-2-(メチルアミ ノ) - ピリジン、2, 6 - ジアミノ - 3, 5 - ジメトキ シピリジン、3,5-ジアミノ-2,6-ジメトキシピ リジン、1, 3 - ジアミノベンゼン、2, 4 - ジアミノ - 1 - (2 - ヒドロキシエトキシ) - ベンゼン、1 -

(2-アミノエトキシ) - 2, 4 - ジアミノベンゼン、 2 - アミノ - 1 - (2 - ヒドロキシエトキシ) - 4 - メ チルアミノベンゼン、2,4-ジアミノフェノキシ酢 酸、3 - 〔ジ(2 - ヒドロキシエチル) アミノ〕 - アニ リン、4-アミノ-2-ジ〔(2-ヒドロキシエチル) アミノ〕-1-エトキシベンゼン、5-メチル-2-(1-メチルエチル) - フェノール、3 - [(2-ヒド ロキシエチル) アミノ〕 - アニリン、3 - 〔(2 - アミ **ノエチル)アミノ〕 - アニリン、1, 3 - ジ〔(2, 4** - ジアミノフェノキシ) - プロパン、ジ(2, 4 - ジア ミノフェノキシ) - メタン、1,3 - ジアミノ - 2,4 ジメトキシベンゼン、2、6 - ビス(2 - ヒドロキシ エチル) アミノトルエン、4 - ヒドロキシインドール、 3 - ジメチルアミノフェノール、3 - ジエチルアミノフ ェノール、5-アミノ-2-メチルフェノール、5-ア ミノ・4-フルオロ・2-メチルフェノール、5-アミ ノ・4・メトキシ・2・メチルフェノール、5・アミノ - 4 - エトキシ - 2 - メチルフェノール、3 - アミノ -2, 4-ジクロロフェノール、5-アミノ-2, 4-ジ クロロフェノール、3-アミノ-2-メチルフェノー ル、3-アミノ-2-クロロ-6-メチルフェノール、 3 - アミノフェノール、2 - 〔(3 - ヒドロキシフェニ ル) アミノ〕 - アセトアミド、5 - [(2 - ヒドロキシ エチル) アミノ〕 - 2 - メチルフェノール、3 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - フェノール、3 -〔(2-メトキシエチル)-アミノ〕-フェノール、5 - アミノ - 2 - エチルフェノール、2 - (4 - アミノ -2 - ヒドロキシフェノキシ) - エタノール、5 = [(3 - ヒドロキシプロピル)アミノ〕 - 2 - メチルフェノー ル、3 - 〔(2, 3 - ジヒドロキシプロピル) アミノ〕 - 2 - メチルフェノール、3 - 〔(2 - ヒドロキシエチ ル) アミノ〕 - 2 - メチルフェノール、2 - アミノ - 3 - ヒドロキシピリジン、5 - アミノ - 4 - クロロ - 2 -メチルフェノール、1-ナフトール、1,5-ジヒドロ キシナフタレン、1,7-ジヒドロキシナフタレン、 2, 3-ジヒドロキシナフタレン、2, 7-ジヒドロキ シナフタレン、2-メチル-1-ナフトールアセテー ト、1,3-ジヒドロキシベンゼン、1-クロロ-2, 4 - ジヒドロキシベンゼン、2 - クロロ - 1, 3 - ジヒ ドロキシベンゼン、1,2-ジクロロ-3,5-ジヒド ロキシ・4・メチルベンゼン、1,5・ジクロロ・2, 4 - ジヒドロキシベンゼン、1,3 - ジヒドロキシ-2 - メチルベンゼン、3,4 - メチレンジオキシフェノー ル、3,4-メチレンジオキシアニリン、5-[(2-ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 1,3 - ベンゾジオクソ ール(benzodioxol) 、6 - ブロモ - 1 - ヒドロキシ -3, 4 - メチレンジオキシベンゼン、3, 4 - ジアミノ 安息香酸、3,4-ジヒドロ-6-ヒドロキシ-1,4 (2H) - ベンゾキサジン(benzoxazin)、6 - アミノ -3, 4 - ジヒドロ - 1, 4 (2 H) - ベンゾキサジン、

3 - メチル - 1 - フェニル - 5 - ピラゾロン、5, 6 -ジヒドロキシインドール、5,6-ジヒドロキシインド リン、5-ヒドロキシインドール、6-ヒドロキシイン ドール、7 - ヒドロキシインドール、2, 3 - インドリ ンジオン、および/または上記物質の塩が挙げられる。 【0016】上記の顕色物質およびカップラー物質は、 染色キャリア物質中にそれぞれ約0.01~10重量% の量、好ましくは0.1~5重量%の量にて含まれる。 【0017】さらに、上記の酸化染料を含む染色キャリ ア物質は、必要に応じてさらなる非酸化染料(以後、 「直接染料」と呼ぶ)を含んでいてもよい。このような 直接染料としては、例えば、1,4-ビス〔(2-ヒド ロキシエチル)アミノ〕-2-ニトロベンゼン、1-(2-ヒドロキシエチル) アミノ・2-ニトロ・4-〔ジ(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕 - ベンゼン(H CブルーNo. 2)、1-アミノ-3-メチル-4-〔(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕-6-ニトロベン ゼン(HCバイオレットNo.1)、4‐〔エチル‐ (2-ヒドロキシエチル) アミノ] -1-〔(2-ヒド ロキシエチル) アミノ・〕 - 2 - ニトロベンゼンヒドロ クロリド (HCブルーNo. 12)、4 - (ジ(2 - ヒ ドロキシエチル) アミノ] -1 - [(2 - メトキシエチ ル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼン (HCブルーNo. 11)、1-〔(2,3-ジヒドロキシプロピル)アミ ノ] - 4 - 〔メチル - (2 - ヒドロキシエチル)アミ ノ) - 2 - ニトロベンゼン (H C ブルーNo. 10)、 1 - [(2, 3 - ジヒドロキシプロピル) アミノ] - 4 - 〔エチル - (2 - ヒドロキシエチル〕アミノ〕 - 2 -ニトロベンゼンヒドロクロリド(HCブルーNo. 9)、1 - (3 - ヒドロキシプロピルアミノ) - 4 -〔ジ(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 2-ニトロベ ンゼン(HCバイオレットNo. 2)、1-メチルアミ ノ・4・〔メチル・(2, 3・ジヒドロキシプロピル) アミノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCブルーNo. 6)、2-((4-アミノ-2-ニトロフェニル)アミ ノ) - 5 - ジメチルアミノ安息香酸(HCブルーNo. 13)、1-アミノ-4-〔(2-ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼン(HCレッドNo. 7)、2-アミノ-4,6-ジニトロフェノール、4-アミノ・2・ニトロジフェニルアミン(HCレッドN o. 1)、1-アミノ-4-〔ジ(2-ヒドロキシエチ ル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼンヒドロクロリド (H CレッドNo. 13)、1-アミノ-5-クロロ-4-[(2-ヒドロキシエチル)アミノ]-2-ニトロベン ゼン、4-アミノ-1-〔(2-ヒドロキシエチル)ア ミノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCレッドNo. 3)、 4-アミノ・3-ニトロフェノール、4-〔(2-ヒド ロキシエチル) アミノ) - 3 - ニトロフェノール、1 -〔(2-アミノエチル)アミノ〕-4-(2-ヒドロキ

シエトキシ) - 2 - ニトロベンゼン (HCオレンジN

o. 2)、4 - (2, 3 - ジヒドロキシプロポキシ) -1 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - 2 - ニトロ ベンゼン(HCオレンジNo. 3)、1-アミノ-5-クロロ・4・〔(2,3・ジヒドロキシプロピル)アミ ノ) - 2 - ニトロベンゼン(HCレッドNo. 10)、 5 - クロロ - 1, 4 - 〔ジ(2, 3 - ジヒドロキシプロ ピル) アミノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCレッドN o. 11)、2 - 〔(2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 4、6 - ジニトロフェノール、4 - エチルアミノ - 3 - ニトロ安息香酸、2 - 〔(4 - アミノ - 2 - ニトロフ ェニル) アミノ〕 - 安息香酸、2 - クロロ - 6 - エチル アミノ・4-ニトロフェノール、2-アミノ・6-クロ ロ・4・ニトロフェノール、4・〔(3・ヒドロキシプ ロピル) アミノ〕 - 3 - ニトロフェノール、2, 5 - ジ アミノ・6・ニトロピリジン、1、2、3、4・テトラ ヒドロ・6 - ニトロキノキサリン(chinoxalin)、7 - ア ミノ-3,4-ジヒドロ-6-ニトロ-2H-1,4-ベンゾキサジン(benzoxazin) (HCレッドNo. 1 4)、1-アミノ-2- [(2-ヒドロキシエチル)ア ミノ) - 5 - ニトロベンゼン (HCイエローNo. 5)、1-(2-ヒドロキシエトキシ)-2-〔(2-ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 5 - ニトロベンゼン (H CイエローNo. 4)、1 - [(2 - ヒドロキシエチ ル) アミノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCイエローN o. 2)、2 - [(2 - ヒドロキシエチル)アミノ] -1-メトキシ-5-ニトロベンゼン、2-アミノ-3-ニトロフェノール、1 - (2 - ヒドロキシエトキシ) -3-メチルアミノ-4-ニトロベンゼン、2,3-(ジ ヒドロキシプロポキシ) - 3 - メチルアミノ - 4 - ニト ロベンゼン、2 - 〔(2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 5 - ニトロフェノール (H C イエローNo. 11)、 3 - [(2-アミノエチル) アミノ] - 1 - メトキシ -4 - ニトロベンゼンヒドロクロリド (HCイエローN o. 9)、1 - [(2 - ウレイドエチル) アミノ] - 4 - ニトロベンゼン、4 - 〔(2,3 - ジヒドロキシプロ ピル) アミノ〕 - 3 - ニトロ - 1 - トリフルオロメチル ベンゼン(HCイエローNo. 6)、1-クロロ-2, 4 - ビス〔(2 - ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 5 - ニ トロベンゼン (H C イエローNo. 10)、4 - 〔(2) - ヒドロキシエチル) アミノ] - 3 - ニトロ - 1 - メチ ルベンゼン、1 - クロロ・4 - 〔(2 - ヒドロキシエチ ル) アミノ〕 - 3 - ニトロベンゼン(H C イエローN o. 12)、4 - [(2-ヒドロキシエチル)アミノ] - 3 - ニトロ - 1 - トリフルオロメチルベンゼン(HC ル) アミノ) - 3 - ニトロベンゾニトリル (HCイエロ -No. 14)、4- ((2-ヒドロキシエチル)アミ ノ) - 3 - ニトロベンザミド (HCイエローNo. 1 5)、1,4-ジ〔(2,3-ジヒドロキシプロピル) アミノ) - 9, 10 - アントラキノン、1 - 〔(2 - ヒ

ドロキシエチル) アミノ] - 4 - メチルアミノ - 9, 1 0 - アントラキノン(CI61505; ディスパースブ ルーNo. 3)、2 - [(2 - アミノエチル) アミノ] - 9, 10 - アントラキノン (H CオレンジNo. 5)、1-ヒドロキシ-4-〔(4-メチル-2-スル ホフェニル) アミノ〕 - 9, 10 - アントラキノン、1 - 〔(3-アミノプロピル)アミノ〕-4-メチルアミ ノ - 9, 10 - アントラキノン (H C ブルーNo. 8)、1 - 〔(3-アミノプロピル)アミノ〕-9,1 0 - アントラキノン(HCレッドNo. 8)、1, 4 -ジアミノ・2・メトキシ・9、10・アントラキノン (CI62015; ディスパースレッドNo. 11、ソ ルベントバイオレットNo. 26)、1, 4 - ジヒドロ キシ・5,8・ビス〔(2・ヒドロキシエチル)アミ ノ〕 - 9、10-アントラキノン(CI62500;デ ィスパースブルーNo. 7、ソルベントブルーNo. 6 9)、9 - (ジメチルアミノ) - ベンゾ [a] フェノク サジン-7-イウム-クロリド(CI51175;ベー シックブルーNo. 6)、ジ〔4 - (ジエチルアミノ) フェニル〕〔4‐(エチルアミノ)ナフチル〕カルベニ ウムクロリド (CI42595; ベーシックブルーN o. 7)、3,7-ジ(ジメチルアミノ)フェノチアジ ン-5-イウム-クロリド(CI52015;ベーシッ クブルーNo. 9)、ジ〔4 - (ジメチルアミノ)フェ ニル〕〔4 - (フェニルアミノ) ナフチル〕カルベニウ ムクロリド(CI44045;ベーシックブルーNo. 26)、2-〔(4-(エチル(2-ヒドロキシエチ ル) アミノ) フェニル) アゾ] - 6 -メトキシ - 3 - メ チルベンゾチアゾリウムメチルスルフェート(CI11 154;ベーシックブルーNo. 41)、8-アミノ-2 - ブロモ - 5 - ヒドロキシ - 4 - イミノ - 6 - [(3 - (トリメチルアンモニオ)フェニル)アミノ] - 1 (4H) - ナフタレンオンクロリド(CI56059; ベーシックブルーNo. 99)、ビス〔4 - (ジメチル アミノ) フェニル〕 〔4 - (メチルアミノ) フェニル〕 カルベニウムクロリド (СІ 4 2 5 3 5; ベーシックバ イオレットNo. 1)、トリス〔4 - (ジメチルアミ ノ)フェニル〕カルベニウムクロリド(CI4255 5;ベーシックバイオレットNo. 3)、2-〔3, 6 - (ジエチルアミノ)ジベンゾピラニウム - 9 - イル) - 安息香酸クロリド(CI45170;ベーシックバイ オレットNo. 10)、ジ(4-アミノフェニル)(4 - アミノ - 3 - メチルフェニル) カルベニウムクロリド (CI42510;ベーシックバイオレットNo. 1 4)、1,3-ビス〔(2,4-ジアミノ-5-メチル フェニル)アゾ〕-3-メチルベンゼン(CI2101 0;ベーシックブラウンNo. 4)、1 - [(4-アミ ノフェニル)アゾ) - 7 - (トリメチルアンモニオ) -2 - ナフトールクロリド (CI12250; ベーシック ブラウンN o . 1 6) 、1 - 〔 (4 - アミノ - 2 - ニト

ロフェニル)アゾ] - 7 - (トリメチルアンモニオ) -2 - ナフトールクロリド (ベーシックブラウンNo. 1 7)、1-〔(4-アミノ-3-ニトロフェニル)ア ゾ〕 - 7 - (トリメチルアンモニオ) - 2 - ナフトール クロリド(CI12251;ベーシックブラウンNo. 17)、3,7-ジアミノ-2,8-ジメチル-5-フ ェニルフェナジニウムクロリド (CI50240;ベー シックレッドNo. 2)、1, 4 - ジメチル - 5 -〔(4-(ジメチルアミノ)フェニル)アゾ〕-1、 2, 4 - トリアゾリウムクロリド (CI11055;ベ ーシックレッドNo.22)、2-ヒドロキシ-1-〔(2-メトキシフェニル)アゾ〕-7-(トリメチル アンモニオ) - ナフタレンクロリド(CI12245; ベーシックレッドNo. 76)、2-[2-((2, 4) - ジメトキシフェニル) アミノ) エテニル〕 - 1, 3, 3 - トリメチル - 3 H - インドール - 1 - イウム - クロ リド(CI48055;ベーシックイエローNo. 1 1)、3-メチル-1-フェニル-4-〔(3-トリメ チルアンモニオ)フェニル)アゾ) - ピラゾール - 5 -オン - クロリド (CI12719; ベーシックイエロー No. 57)、ビス [4 - (ジエチルアミノ) フェニ ル〕フェニルカルベニウムハイドロゲンスルフェート (1:1) (CI42040;ベーシックグリーンN o. 1)、1 - 〔ジ(2 - ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 3 - メチル - 4 - 〔 (4 - ニトロフェニル) アゾ〕 -ベンゼン(CI11210;ディスパースレッドNo. 17)、4-〔(4-アミノフェニル)アゾ]-1-〔ジ(2 - ヒドロキシエチル)アミノ) 3 - メチルベ ンゼン(HCイエローNo. 7)、2, 6 - ジアミノ -3 - 〔(ピリジン - 3 - イル) アゾ〕 - ピリジン、6 -ヒドロキシ・5 - 〔(4 - スルホフェニル)アゾ〕 - 2 - ナフタレンスルホン酸ジナトリウム塩(CI1598 5; フードイエローNo. 3; FD&CイエローNo. 6)、2,4-ジニトロ-1-ナフトール-7-スルホ ン酸ジナトリウム塩(СІ10316;アシッドイエロ -No.1; フードイエローNo.1)、2-(インダ ン-1,3-ジオン-2-イル) キノリン-x,x-ス ルホン酸(モノスルホン酸とジスルホン酸との混合物) (CI47005; D&CイエローNo. 10; フード イエローNo. 13:アシッドイエローNo. 3)、5 - ヒドロキシ - 1 - (4 - スルホフェニル) - 4 -〔(4-スルホフェニル)アゾ〕ピラゾール・3-カル ボン酸トリナトリウム塩(СІ19140;フードイエ ローNo. 4;アシッドイエローNo. 23)、9-(2-カルボキシフェニル) - 6-ヒドロキシ-3H-キサンテン・3・オン(CI45350;アシッドイエ ローNo. 73; D&CイエローNo. 8)、5-〔(2, 4-ジニトロフェニル)アミノ〕-2-フェニ ルアミノベンゼンスルホン酸ナトリウム塩(CIIO3 85;アシッドオレンジNo. 3)、4-[(2, 4-

ジヒドロキシフェニル)アゾ) - ベンゼンスルホン酸モ ノナトリウム塩(CI14270; アシッドオレンジN o. 6)、4 - 〔(2 - ヒドロキシナフト - 1 - イル) アゾ〕 - ベンゼンスルホン酸ナトリウム塩 (CI155 10; アシッドオレンジNo. 7)、4-〔(2, 4-ジヒドロキシ・3・〔(2, 4・ジメチルフェニル)ア ゾ〕 - フェニル) アゾ〕 - ベンゼンスルホン酸ナトリウ ム塩(CI20170;アシッドオレンジNo. 2 4)、4-ヒドロキシ-3-[(4-スルホナフト-1 - イル) アゾ - 1 - ナフタレンスルホン酸ジナトリウ 10 ム塩(CI14720;アシッドレッドNo.14)、 6 - ヒドロキシ - 5 - 〔(4 - スルホナフト - 1 - イ ル) アゾ〕 - 2, 4 - ナフタレン - ジスルホン酸トリナ トリウム塩(CI16255; ポンソウ4R; アシッド レッドNo. 18)、3-ヒドロキシ-4-[(4-ス ルホナフト・1・イル)アゾ)・2,7・ナフタレンジ スルホン酸トリナトリウム塩(CI16185;アシッ ドレッドNo. 27)、8-アミノ-1-ヒドロキシ-2 - (フェニルアゾ) - 3, 6 - ナフタレンジスルホン 酸ジナトリウム塩 (CI17200; アシッドレッドN 20 o. 33)、5 - (アセチルアミノ) - 4 - ヒドロキシ - 3 - 〔(2 - メチルフェニル) アゾ) - 2, 7 - ナフ タレンジスルホン酸ジナトリウム塩(CI18065; アシッドレッドNo. 35)、2-(3-ヒドロキシ-2, 4, 5, 7-テトラヨードジベンゾピラン-6-オ ン-9-イル) - 安息香酸ジナトリウム塩(CI454 30; アシッドレッドNo. 51)、N-〔6-(ジエ チルアミノ) - 9 - (2, 4 - ジスルホフェニル) - 3 H - キサンテン - 3 - イリデン〕 - N - エチルエタンア ンモニウムヒドロキシド、分子内塩、ナトリウム塩(C 30 I45100;アシッドレッドNo. 52)、8-〔(4 - (フェニルアゾ)フェニル)アゾ〕 - 7 - ナフ トール・1, 3・ジスルホン酸ジナトリウム塩(CI2 7290;アシッドレッドNo. 73)、2', 4', 5', 7'-テトラブロモ-3', 6'-ジヒドロキシ スピロ (イソベンゾフラン・1 (3H), 9'- [9 H〕キサンテン〕 - 3 - オン - ジナトリウム塩(CI4 5380;アシッドレッドNo. 87)、2', 4', 5', 7'-テトラブロモ-4, 5, 6, 7-テトラク ロロ・3', 6'・ジヒドロキシスピロ〔イソベンゾフ ラン - 1 (3H), 9' [9H] キサンテン] - 3 - オ ン - ジナトリウム塩 (CI45410; アシッドレッド No. 92)、3', 6'-ジヒドロキシ-4', 5' - ジョードスピロ - 〔イソベンゾフラン - 1 (3H), 9' [9H] - キサンテン] - 3 - オン - ジナトリウム 塩(CI45425;アシッドレッドNo. 95)、 (2 - スルホフェニル) ジ〔4 - (エチル ((4 - スル ホフェニル) メチル) アミノ) -フェニル] -カルベニ ウムジナトリウム塩、ベタイン (CI42090;アシ ッドブルーNo. 9; FD&CブルーNo. 1)、1,

4 - ビス〔(2 - スルホ - 4 - メチルフェニル) アミ ノ〕 - 9, 10 - アントラキノンジナトリウム塩 (CI 6157.0;アシッドグリーンNo. 25)、ビス [4 - (ジメチルアミノ) フェニル) - (3, 7 - ジスルホ - 2 - ヒドロキシナフト - 1 - イル) カルベニウム分子 内塩、モノナトリウム塩(CI44090;フードグリ ーンNo. 4;アシッドグリーンNo. 50)、ビス [4 - (ジエチルアミノ) フェニル] (2, 4 - ジスル ホフェニル) - カルベニウム分子内塩、ナトリウム塩 (2:1) (CI42045; フードブルーNo. 3; アシッドブルーNo. 1)、ビス〔4 - (ジエチルアミ ノ)フェニル〕(5-ヒドロキシ-2、4-ジスルホフ ェニル)カルベニウム分子内塩、カルシウム塩(2: 1) (CI42051; アシッドブルーNo. 3)、1 - アミノ・4 - (シクロヘキシルアミノ) - 9, 10 -アントラキノン・2・スルホン酸ナトリウム塩(CI6 2045; アシッドブルーNo. 62)、2-(1, 3 - ジヒドロ - 3 - オクソ - 5 - スルホ - 2 H - インドー ル・2・イリデン)・2,3・ジヒドロ・3・オクソ・ 1H-インドール-5-スルホン酸ジナトリウム塩(C I 7 3 0 1 5; アシッドブルーNo. 7 4)、9 - (2 カルボキシフェニル) - 3 - 〔(2 - メチルフェニ ル) アミノ〕 - 6 - (2 - メチル - 4 - スルホフェニ ル) アミノ〕キサンチリウム分子内塩、モノナトリウム 塩(CI45190;アシッドバイオレットNo. 9)、1-ヒドロキシ-4-[(4-メチル-2-スル ホフェニル) アミノ〕 - 9, 10 - アントラキノンナト リウム塩(CI60730;D&CバイオレットNo. 2;アシッドバイオレットNo. 43)、ビス〔3-ニ トロ・4・〔(4・フェニルアミノ)・3・スルホフェ ニルアミノ〕 - フェニル〕 - スルホン(C I 1 0 4 1 0;アシッドブラウンNo. 13)、5-アミノ-4-ヒドロキシ・6・〔(4・ニトロフェニル)アゾ)・3 - (フェニルアゾ) - 2, 7 - ナフタレンジスルホン酸 ジナトリウム塩 (CI20470; アシッドブラックN o. 1)、3-ヒドロキシ-4-[(2-ヒドロキシナ フト・1 - イル) アゾ〕 - 7 - ニトロ - 1 - ナフタレン スルホン酸クロム錯体(3:2)(CI15711;ア シッドブラックNo. 52)、3-〔(2, 4-ジメチ ル・5・スルホフェニル) アゾ〕・4・ヒドロキシ・1 ナフタレンスルホン酸ジナトリウム塩(CI1470 0;フードレッドNo.1;ポンソウSX;FD&Cレ ッドNo. 4)、4 - (アセチルアミノ) - 5 - ヒドロ キシ・6・〔(7・スルホ・4・〔(4・スルホフェニ ル) アゾ ナフト・1・イル) アゾ -1, 7・ナフタ レンジスルホン酸テトラナトリウム塩(CI2844 0; フードブラックNo. 1)、および3-ヒドロキシ - 4 - (3 - メチル - 5 - オクソ - 1 - フェニル - 4, 5 - ジヒドロ - 1 H - ピラゾール - 4 - イルアゾ) - ナ

フタレン・1・スルホン酸ナトリウム塩、クロム錯体

(アシッドレッドNo. 195)、特に、2, 6 - ジア ミノ・3・(ピリジン・3・イル)アゾ・ピリジン、8 - アミノ - 2 - ブロム - 5 - ヒドロキシ - 4 - イミノ -6 - 〔(3 - (トリメチルアンモニオ)フェニル)アミ ノ] -1 (4H) - ナフタレンオンクロリド(CI56 059;ベーシックブルーNo. 99)、またはニトロ 染料、例えば1,4-ビス〔2-ヒドロキシエチル〕ア ミノ] - 2 - ニトロベンゼン、1 - (2 - ヒドロキシエ チル) アミノ・2・ニトロ・4 [ジ(2・ヒドロキシエ チル) アミノ〕 - ベンゼン(H C ブルーNo. 2)、1 - アミノ - 3 - メチル - 4 - 〔(2 - ヒドロキシエチ ル) アミノ〕 - 6 - ニトロベンゼン(H C バイオレット No. 1)、4 - [エチル - (2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - 1 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] -2 - ニトロベンゼンヒドロクロリド (HCブルーNo. 12)、4-〔ジ(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕-1 - [(2-メトキシエチル)アミノ] - 2 - ニトロベ ンゼン (H C ブルーNo. 11)、1 - 〔(2, 3 - ジ ヒドロキシプロピル) アミノ〕 - 4 - 〔メチル - (2 -ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼン (H 20 CブルーNo. 10)、1 - 〔(2, 3 - ジヒドロキシ プロピル)アミノ]-4-〔エチル-〔2-ヒドロキシ エチル) アミノ〕 - 2 -ニトロベンゼンヒドロクロリド (H C ブルーNo. 9)、1 - (3 - ヒドロキシプロピ ルアミノ) - 4 - 〔ジ(2-ヒドロキシエチル)アミ ノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCバイオレットNo. 2)、1-メチルアミノ-4-〔メチル-(2,3-ジ ヒトロキシプロピル) アミノ] -2 - ニトロベンゼン (HCブルーNo. 6)、2-((4-アミノ-2-ニ トロフェニル) アミノ) - 5 - ジメチルアミノ安息香酸 30 (HCブルーNo. 13)、1-アミノ-4-〔(2-ヒドロキシエチル)アミノ) - 2 - ニトロベンゼン(H CレッドNo. 7)、2-アミノ-4,6-ジニトロフ ェノール、4-アミノ-2-ニトロジフェニルアミン (HCレッドNo. 1)、1-アミノ-4-〔ジ(2-ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼンヒド ロクロリド (HCレッドNo. 13)、1-アミノ-5 - クロロ・4 - [(2 - ヒドロキシエチル)アミノ] -2 - ニトロベンゼン、4 - アミノ - 1 - 〔(2 - ヒドロ キシエチル)アミノ] - 2 - ニトロベンゼン(HCレッ ドNo. 3)、4-アミノ-3-ニトロフェノール、4 - [(2-ヒドロキシエチル)アミノ]-3-ニトロフ ェノール、1 - 〔(2 - アミノエチル) アミノ〕 - 4 -(2 - ヒドロキシエトキシ) - 2 - ニトロベンゼン(H CオレンジNo. 2)、4 - (2, 3 - ジヒドロキシプ ロポキシ) - 1 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - 2 - ニトロベンゼン (H C オレンジNo. 3)、1 -アミノ・5・クロロ・4・〔(2,3・ジヒドロキシプ ロピル) アミノ) - 2 - ニトロベンゼン (HCレッドN o. 10)、5-クロロ-1,4-(ジ(2,3-ジヒ 50

ドロキシプロピル) アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼン(H CレッドNo. 11)、2-[(2-ヒドロキシエチ ル) アミノ] - 4, 6 - ジニトロフェノール、4 - エチ ルアミノ・3 - ニトロ安息香酸、2 - 〔(4-アミノ-2 - ニトロフェニル) アミノ〕 - 安息香酸、2 - クロロ - 6 - エチルアミノ - 4 - ニトロフェノール、2 - アミ ノ・6・クロロ・4・ニトロフェノール、4・〔(3・ ヒドロキシプロピル) アミノ〕 - 3 - ニトロフェノー ル、2,5-ジアミノ-6-ニトロピリジン、1,2, 3、4-テトラヒドロ-6-ニトロキノキサリン、7-アミノ-3, 4-ジヒドロ-6-ニトロ-2H-1, 4 - ベンゾキサジン (HCレッドNo. 14)、1-アミ ノ - 2 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - 5 - ニ トロベンゼン(HCイエローNo. 5)、1-(2-ヒ ドロキシエトキシ) - 2 - 〔(2 - ヒドロキシエチル) アミノ) - 5 - ニトロベンゼン (H C イエローNo. 4)、1-[(2-ヒドロキシエチル)アミノ]-2-ニトロベンゼン (HCイエローNo. 2)、2 - 〔(2 - ヒドロキシエチル) アミノ〕 - 1 - メトキシ - 5 - ニ トロベンゼン、2-アミノ-3-ニトロフェノール、1 - (2 - ヒドロキシエトキシ) - 3 - メチルアミノ - 4 - ニトロベンゼン、2, 3 - (ジヒドロキシプロポキ シ) - 3 - メチルアミノ - 4 - ニトロベンゼン、2 -〔(2-ヒドロキシエチル)アミノ〕-5-ニトロフェ ノール(H C イエロー N o. 11)、3 - 〔(2 - アミ ノエチル) アミノ〕 - 1 - メトキシ - 4 - ニトロベンゼ ンヒドロクロリド (HCイエローNo. 9)、1-- [(2 - ウレイドエチル) アミノ) - - 4 - ニトロベンゼ ン、4 - 〔(2.3 - ジヒドロキシプロピル) アミノ〕 - 3 - ニトロ - 1 - トリフルオロメチルベンゼン(HC イエローNo. 6)、1-クロロ-2, 4-ビス-[(2-ヒドロキシエチル)アミノ]-5-ニトロベン ゼン (HCイエローNo. 10)、4 - ((2-ヒドロ キシエチル) アミノ〕・3・ニトロ・1・メチルベンゼ ン、1-クロロ-4-〔(2-ヒドロキシエチル)アミ ノ〕 - 3 - ニトロベンゼン (H C イエローNo. 1 2) 、4 - [(2 - ヒドロキシエチル) アミノ] - 3 -ニトロ - 1 - トリフルオロメチルベンゼン(HCイエロ -No. 13)、4 - 〔(2 - ヒドロキシエチル)アミ ノ) - 3 - ニトロベンゾニトリル (H CイエローNo. 14)、4-[(2-ヒドロキシエチル)アミノ]-3 - ニトロベンザミド (H C イエローNo. 15) が挙げ られる。特に、さらに好適な直接染料としては、例え ば、4-アミノ-1-〔(2-ヒドロキシエチル)アミ ノ〕 - 2 - ニトロベンゼン(HCレッドNo. 3)、1 - アミノ・4 - 〔ジ(2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 2 - ニトロベンゼンヒドロクロリド(H C レッドN o. 13)、8-アミノ-2-ブロモ-5-ヒドロキシ - 4 - イミノ - 6 - 〔 (3 - (トリメチルアンモニオ) フェニル) - アミノ〕 - 1 (4H) - ナフタレンオンク

ロリド (C I 5 6 0 5 9; ベーシックブルーNo. 9 9)、4 - 〔エチル - (2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 2 - ニトロペンゼンヒドロクロリド(H C ブルーNo. 1 2)、1 - (2 - ヒドロキシエチル) - アミノ - 2 - ニトロペンゼンとドロクロリド(H C ブルーNo. 1 2)、1 - (2 - ヒドロキシエチル) - アミノ - 2 - ニトロ - 4 - 〔ジ(2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - ベンゼン、4 - 〔エチル - (2 - ヒドロキシエチル)アミノ〕 - 2 - ニトロペンゼンヒドロクロリド、4 - アミノ - 3 - ニトロフェノール、1 - アミノ - 4 - 〔ジ(2 - ヒドロキシロリド、および/または2 - アミノ - 6 - クロロ - 4 - ニトロフェノール、並びに2,6 - ジアミノ - 3 - (ピリジン・3 - イル)アゾピリジンが挙げられる。

【0018】上記の直接染料は、上記の染色キャリア物質中に約0.01~10重量%の量、好ましくは0.1~5重量%の量にて添加することができる。

【0019】また、この多成分キットの場合、酸化剤は 染色キャリア物質から分離されている。この多成分キットに含まれる過酸化水素または過酸化水素付加化合物ま 20 たは酸化作用を有する酵素の量は、染料前駆体の混合物 を定量的に酸化染料に変換するのに十分な量に調整され る。この場合、酸化剤はそのまま使用できる形態、また は好適な溶剤の添加によって使用できる乾燥物質の形態 のいずれかの形態で存在させることができる。

【0020】また、本発明の多成分キットに含まれる酸化剤としては、一般に、過酸化水素、または尿素、メラミンまたは臭素酸ナトリウムと過酸化水素との付加化合物が使用されるが、特に好ましいのは過酸化水素である。一般に、過酸化水素または過酸化水素付加化合物は、染料前駆体の酸化のために1~12重量%の濃度にて添加される。

【0021】しかしながら、毛髪に優しいのは、空気または酸素による染料前駆体の酵素的酸化である。この場合には特に温和な条件によるものであるという特長がある。このpH値は弱酸から弱塩基の領域にあり、使用する酵素プロテインは毛髪の構造に作用しない。しかしながら、過酸化物を使用する場合と比較して、酸化作用を有する酵素を使用した場合には、毛髪を「白色染色(ヘラー染色)」することは不可能である。

【0022】酵素の存在下において、周囲の空気または酸素を用いて酸化染料を酸化的に生じさせるためには、一段または多段の酵素酸化機構が使用できる。一段の酵素機構の場合、染料混合物中の芳香族性のフェノール類およびアミン類は、酸素供給によって過酸化物を添加しなくても直接、高分子量の染料に酸化され得る。この場合、フェノールオキシダーゼ、好ましくはラッカーゼが使用される。これに対して、多段の酵素酸化機構の場合には、染料を生産するために、複数の酵素が必要とされる。

【0023】染料前駆体から酸化染料を製造するための多段の酵素酸化機構としては、酸素 - オキシドレダクターゼ(Oxidoreductase)/基質 - 系と、ペルオキシダーゼとの組み合わせを使用することができる。酸素 - オキシドレダクターゼ/基質 - 系の具体例を次に挙げる。グルコース - オキシダーゼ(EC 1.1.3.4)/D - グルコース

アルコール - オキシダーゼ (EC 1.1.3.13) /エタノー ル

o ピルベート - オキシダーゼ (EC 1.2.3.3) / ピルベート (Pyruvat)

オキサレート - オキシダーゼ (EC 1.2.3.4) /オキサレート (0xalat)

コレステリン - オキシダーゼ (EC 1.1.3.6) /コレステリン

ウリカーゼ(Uricase) (EC 1.7.3.3) /尿酸 ラクテート - オキシダーゼ/乳酸 キサンチン - オキシダーゼ (EC 1.1.3.22) /キサンチン

【0024】ここで、括弧内に挙げた酵素の分類は、 「酵素の命名法と分類に関する生化学国際連盟の分類 (1984)」に基づいている。

【0025】染色キャリア物質の調合形態並びに、そのまま使用できる酸化染色剤の調合形態は、例えば、溶液、特に水性または水・アルコール性溶液であってもよい。しかしながら、特に好ましい調合形態はクリーム、ゲルまたはエマルジョンである。この調合物は、このような調合において一般的な添加剤と、染料成分との混合物から成る。

【0026】本発明の多成分キットに含まれる非酸化染色を生じさせるための薬剤(成分(I))は、染料として上記の直接染料を含有しており、この際、この染料は、約0.01~10重量%の総量、好ましくは0.1~5重量%の総量にて添加される。

【0027】非酸化染色剤は、例えば、溶液、特に水性若しくは水-アルコール性溶液の形態で存在していてもよい。しかしながら、特に好ましい調合形態はクリーム、ゲル、エーロゾル泡またはエマルジョンである。このような調合物は、そのような調合において一般的な添加剤と、染料成分との混合物から構成される。

【0028】酸化若しくは非酸化染色剤において一般的に使用され、溶剤、クリーム、エマルジョン、ゲルまたはエーロゾル泡にする添加剤としては、例えば、水、低級脂肪アルコール、例えばエタノール、n-プロパノールおよびイソプロパノール、またはグリコール、例えばグリセリンおよび1,2-プロパンジオール、さらにアニオン性、カチオン性、両性または非イオン性界面活性剤からなる湿潤剤または乳化剤(例えば脂肪アルコールスルフェート、オキシエチル化脂肪アルコールスルフェート、アルキルスルホネート、アルキルベンゼンスルホ

ネート、アルキルトリメチルアンモニウム塩、アルキル ベタイン、オキシエチル化脂肪アルコール、オキシエチ ル化ノニルフェノール、脂肪酸アルカノールアミド、オ キシエチル化脂肪アルコール、オキシエチル化ノニルフ ェノール、脂肪酸アルカノールアミド、オキシエチル化 脂肪酸エステルが挙げられる)、さらに増粘剤(例えば 高級脂肪アルコール、澱粉、またはセルロース誘導体が 挙げられる)、香料、毛髪用前処理剤、コンディショニ ング剤、毛髪用柔軟剤、保存剤、さらにワセリン、パラ フィンオイル、脂肪酸、並びに他の保護剤(例えばカチ 10 オン性樹脂、ラノリン誘導体、コレステリン、パントテ ンサン酸およびベタインが挙げられる)が挙げられる。 ここに挙げられている成分は、その目的のための通常量 が使用され、例えば、湿潤剤および乳化剤は約0.5~ 30重量%の濃度(染色キャリア物質に基づく)にて、 増粘剤は約0.1~25重量%の量(染色キャリア物質 に基づく)にて、保護剤は約0.1~5.0重量%の濃 度(染色キャリア物質に基づく)にて使用される。

【0029】そのまま使用できる酸化若しくは非酸化染 色剤のpH値は $3\sim11$ 、好ましくは $5\sim9$ の範囲にな $_{20}$ っている。

【0030】そのまま使用できる酸化染色剤の p H値は、好ましくはアルカリ性に調節された染色キャリア物質と、通常酸性に調節された酸化剤とを混合した場合に、染色キャリア物質中のアルカリ量と酸化剤中の酸量によって、並びにこの混合比率によって決められる p H 値に調整される。

【0031】染色するのに好ましいpH値に調整するために、アルカリ性にする薬剤、例えば、アルカノールアミン類、アルキルアミン類、アルカリヒドロキシド類若 30 しくはアンモニウムヒドロキシド、およびアルカリカーボネート類若しくはアンモニウムカーボネート類、(このなかではアンモニウムヒドロキシドが好ましい)、または酸、例えば、乳酸、酢酸、酒石酸、リン酸、塩酸、クエン酸、アスコルビン酸およびホウ酸などを使用することができる。

【0032】特に、酵素触媒酸化の場合、pH値を制御するためには、緩衝系の使用が好ましい。この場合、クエン酸塩緩衝剤、リン酸塩緩衝剤、またはホウ酸塩緩衝剤が添加され得る。好ましくは、ホウ酸塩緩衝剤(ホウ酸/NaOH)またはリン酸塩緩衝剤(KH2 PO4 / K2 HPO4)が使用される。

【0033】酸化染色の場合、使用する直前に、上記酸化剤を、染料前駆体、必要に応じて添加される直接染料および一般的な補助剤を含む染色キャリア物質と混合し、毛髪に塗布する。所望の染色度合いに応じて、摂氏 $20\sim50$ $\mathbb C$ 、好ましくは摂氏 $30\sim40$ $\mathbb C$ の温度で、この混合物を $5\sim60$ 分間、好ましくは $15\sim30$ 分間作用させる。次に、毛髪を水でゆすいで必要に応じてシャンプーで洗浄する。

【0034】ここで、この染色キャリア物質と酸化剤は5:1~1:3の重量比率、好ましくは1:1~1:2の重量比率で互いに混合される。

【0035】非酸化染色の場合、前記染色剤を毛髪に塗布する。そして、所望の染色度合いに応じて、摂氏20~50 $^{\circ}$ 、好ましくは摂氏30~40 $^{\circ}$ の温度にて、混合物を5~60分間、好ましくは15~30分間作用させる。次に、髪を水でゆすいで必要に応じてシャンプーで洗浄する。

【0036】本発明の多成分キットのもう一つの重要な成分は、酸化染料および/または直接染料で染色した繊維を還元脱色するための成分(II)の薬剤であり、この薬剤は、a)少なくとも1種のリダクトンおよび/またはチオールおよび/または亜硫酸塩と、b)少なくとも1種類のα-オキソカルボン酸またはそれらの生理学的に温和な塩との組み合わせを含有する。

【0037】リダクトンとしては、例えば、アスコルビ ン酸またはイソアスコルビン酸あるいはこれらの塩また はエステル (例えば、6 - O - パルミトイルアスコルベ ート、ヒドロキシプロパンジアール(トリオーゼリダク トン)、2、3-ジヒドロキシ-2-シクロペンテン-1 - オン (還元酸 (Redukt insaeure)) 、または上記化合 物の混合物が挙げられる)が、好ましくは1~50重量 %の量、さらに好ましくは2~10重量%の量にて添加 される。この際、アスコルビン酸またはイソアスコルビ ン酸の使用が好ましく、特にアスコルビン酸が好まし い。アスコルビン酸塩またはイソアスコルビン酸塩を使 用する場合、これらのフリーな酸類を、例えばアルカリ 金属アスコルベート若しくはアルカリ土類金属アスコル ベートあるいはアルカリ金属イソアスコルベート若しく はアルカリ土類金属イソアスコルベートなどの塩類か ら、酸を添加することによってその場で生じさせること も可能である。これによって、水への塩の溶解性がより 向上し、特により高濃度である場合に有利になる。ここ で、アスコルビン酸塩またはイソアスコルビン酸塩とし ては、例えば、アスコルビン酸またはイソアスコルビン 酸のカルシウム塩、マグネシウム塩およびナトリウム塩 が挙げられる。

【0038】チオール類としては、システインまたはその塩、N-アセチルシステイン、システアミンまたはその塩、メルカプトアセトアルデヒド、ペニシルアミン、グルタチオン、ホモシステインまたはその塩、および/またはカルシウムチオグリコレートが挙げられるが、システインおよびその塩が特に好ましい。

【0039】さらに、この脱色剤には、毛髪に偶発的に 残留した染料前駆体が再酸化するのを防止するために、 亜硫酸塩、例えばアルカリ亜硫酸塩またはアルカリ土類 亜硫酸塩、特に亜硫酸塩ナトリウムを含有させることが できる。

50 【0040】チオール類の添加量は0.1~10重量

%、好ましくは2~5重量%であり、一方、亜硫酸塩 は、0.001~5重量%の量にて、好ましくは0.0 1~0.5重量%の量にて添加される。

【0041】 α - オキソカルボン酸としては、 α - アルデヒド酸類並びに、 α - ケトカルボン酸類、例えばグリオキシル酸、ピルビン酸(Brenztraubensaeure)、オキサル酢酸または α - ケトグルタル酸など、及びこれらのアルカリ塩及びアルカリ土類塩を使用することができる。

【0042】 α -オキソカルボン酸及びこれらの生理学的に温和な塩の添加量は、 $0.1\sim10$ 重量%の範囲であり、この際、 $0.5\sim5$ 重量%の添加量が好ましい。

【0043】これに相当する α -オキソカルボン酸エステルは脱色反応を良くせず、そのために、(例えば、その場での)エステル鹸化の後だけ、 α -オキソカルボン酸類として添加することができる。

【0044】特に好ましい実施態様においては、上記の脱色剤は、成分a)として、少なくとも1種類のリダクトン(好ましくはアスコルビン酸)と、少なくとも1種類のチオール(好ましくはシステインおよび/またはシステイン・ヒドロクロリド)とからなる組み合わせと、成分b)として、α-オキソカルボン酸又はこれらの生理学的に温和な塩を含有する。

【0045】しかしながら、脱色を行うために、リダクトン又はチオール又は亜硫酸塩を単独で含有するもの、あるいは、チオールと亜硫酸塩との組み合わせ、又は、リダクトンと亜硫酸塩、又はリダクトンとチオールと亜硫酸塩との組み合わせと、成分b)として、α-オキソカルボン酸又はこれらの生理学的に温和な塩を含有する薬剤を使用することも可能である。

【0046】酸化染料および/または直接染料の組み合わせで染色した繊維の還元脱色のための薬剤(以後、

「脱色剤」と呼ぶ)は、水性若しくは水-アルコール性溶液として、あるいはゲル、クリーム、エマルジョンまたは泡として存在し、ここで、この脱色剤は、単一成分調合剤の形態にも、複数成分調合剤の形態にも調製可能である。この脱色剤は、粉末形態の他に、散粉を防ぐように、錠剤(発泡錠剤)にもまたは顆粒の形態にも調製することができる。そして、この脱色剤は、使用する前に、必要に応じて1種類また複数種類の下記の補助剤を添加して、冷水または温水を使用して調製される。しかしながら、この補助剤は(それが固体である場合)、脱色粉末または脱色顆粒あるいは発泡錠剤中に予め含まれたものであってもよい。さらに、油またはワックスで粉末を濡らすことによって、散粉を少なくすることができる。

【0047】この脱色剤は、更なる補助剤として例えば次のものを含有することができる。溶剤(例えば、水;エタノール、n-プロパノールおよびイソプロパノールなどの低級脂肪アルコール;グリコールエーテルまたはグリコール、例えば、グリセリンおよび特に1,2-プ

ロパンジオール)、湿潤剤または乳化剤(例えば脂肪ア ルコールスルフェート、オキシエチル化脂肪アルコール スルフェート、アルキルスルホネート、アルキルベンゼ ンスルホネート、アルキルトリメチルアンモニウム塩、 アルキルベタイン、オキシエチル化脂肪アルコール、オ キシエチル化ノニルフェノール、脂肪酸アルカノールア ミド、オキシエチル化脂肪アルコール、オキシエチル化 ノニルフェノール、脂肪酸アルカノールアミド、オキシ エチル化脂肪酸エステルなどのアニオン性、カチオン 性、両性若しくは非イオン性界面活性剤)、増粘剤(例 えば、高級脂肪アルコール、澱粉またはセルロース誘導 体)、香料、毛髪用前処理剤、コンディショニング剤、 毛髪用柔軟剤、保存剤、ワセリン、パラフィンオイルお よび脂肪酸、並びに他の保護剤(例えば、カチオン性樹 脂、ラノリン誘導体、コレステリン、パントテン酸およ びベタイン)。

【0048】この脱色剤のpH値は、約1.8~6、好ましくは2.5~4である。必要に応じて、その他の酸(例えば乳酸、酒石酸、クエン酸又はりんご酸などのα-ヒドロキシカルボン酸類、リン酸、酢酸、グリコール酸、サリチル酸、グルタチオンまたはグルコン酸ラクトンなど)、またはアルカリ化剤(例えばアカノールアミン類、アルキルアミン類、アルカリヒドロキシド類、アンモニウムヒドロキシド類、アルカリカーボネート類、アンモニウムカーボネート類またはアルカリホスフェート類など)が添加されることにより、所望のpH値に調整される。

【0049】上記 α -オキソカルボン酸類を上記の脱色 剤に直接添加することは特に簡単であるが、同様に脱色 結果を悪くせずに、 α -オキソカルボン酸類を脱色剤と は別けて包装しておき、脱色処理に引き続いて、別の後 処理工程にて添加することも可能である。

【0050】同様に、 α -オキソカルボン酸又はこれらの生理学的に温和な塩を、脱色剤中にも後処理剤中にも同時に添加することも可能である。

【0051】驚くべきことに、脱色処理の直後では、 α - オキソカルボン酸を添加しなくても(即ち、成分 a)を単独で使用した場合でも)、 α - オキソカルボン酸を添加しても、脱色結果がほぼ同じであるが、数時間後では明らかな違いが現れるということが確認された。このように、 α - オキソカルボン酸を添加せずに脱色した毛髪は、数時間又は数日後には、空気酸化によって再び部分的に変色するが、一方、 α - オキソカルボン酸を添加して脱色した毛髪は、変色を起こさない。このようにして、 α - オキソカルボン酸添加物は、脱色結果の固定をもたらし、かつ僅かな色の退色を阻止する。

【0052】前記脱色剤の作用時間は、脱色度合いおよび温度(摂氏約20~50℃)によって5~60分間、好ましくは15~30分間であり、この脱色工程は熱供 給によって促進させることができる。脱色剤の作用時間

が経過した後に、毛髪を水でゆすいで、必要に応じてシャンプーで洗浄する。

【0053】この脱色剤が α -オキソカルボン酸を含まない場合には、脱色処理に引き続いて、 α -オキソカルボン酸を含む洗滌液を用いて、好ましくは酸性のpH領域にて毛髪を後処理し、その後、乾燥させる。

【0054】本発明による成分(II)の脱色剤の使用は、もちろん、本発明の多成分キットの成分(I)によって得た髪色の脱色に限定されるものではない。本発明の成分(I) の染料を使用しないで全く別の独立した方法で染色した髪色の脱色にも、成分(II)の脱色調合剤を使用することができる。さらに、本発明による成分(II)の脱色調合物は、酸化染料および/または直接染料で染色されている限りは、他の多くの天然若しくは合成繊維、例えば、木綿、絹、ビスコース、ナイロン、セルロースアセテートの脱色のために添加されてもよく、ケラチン繊維、特に羊毛、毛皮又は人毛の脱色に限定されるものではない。

【0055】したがって、本願の対象は、酸化染料および/または直接染料で染色した繊維、特に毛髪を還元脱 20色するための薬剤で、a)少なくとも1種類のリダクトン(例えば、アスコルビン酸若しくはイソアスコルビン酸あるいはその塩若しくはエステル、例えば、6-0-パルミトイルアスコルビン酸、ヒドロキシプロパンジアール(トリオーゼリダクトン)、2,3-ジヒドロキシ-2-シクロペンテン-1-オン(還元性酸(Reduktins

a. 酸化染毛剤

NH₃ (25%水溶液) または NaOH (10%水溶液) を加える)

カップラー物質(必要に応じて

NH3 (25%水溶液) または

NaOH (10%水溶液) を加える)

ニトロ染料

ジナトリウムエチレンジアミノテトラアセテート

亜硫酸ナトリウム

ナトリウムラウリルエーテルスルフェート(28%水溶液)

イソプロパノール アンモニア (25%水溶液)

完全脱塩水

【0060】上記の染色キャリア物質5gと、4%の過酸化水素溶液5gとを混合する。このようにして得られた使用の準備ができた酸化染毛剤を髪に塗布して、刷毛

(特に、システインまたはその塩が好ましい)、および/または少なくとも1種類のチオール、特にシステインおよび/または少なくとも1種類の亜硫酸塩、特に亜硫酸ナトリウムと、b)少なくとも1種類のα-オキソカルボン酸又はその生理学的に温和な塩との組み合わせを含有するもの、並びに、酸化染料および/または直接染料で染色した繊維、特に毛髪を脱色するためのこのような薬剤の使用である。この際、a)少なくとも1種類のリダクトン、特にアスコルビン酸若しくはイソアスコルビン酸あるいはその塩と、少なくとも1種類のチオール、特にシステインおよび/

22

aeure, reductic acid))、または上記化合物の混合

物、特にアスコルビン酸、および/またはチオール類

【0056】本発明の脱色剤は、酸化染料および/または直接染料で染色した繊維を、脱色残しを生じさせることなく、素早く、温和かつ均一に安定して脱色できる。 【0057】次に、実施例に基づいて本発明をさらに詳細に説明するが、本発明はこの実施例に限定されるわけ

またはシステイン - ヒドロキシドと、b)少なくとも1

種類のα-オキソカルボン酸又はその生理学的に温和な

塩との組み合わせを使用することが特に好ましい。

ではない。 【0058】

【実施例】実施例1.1~1.14:

[0059]

混合量を表1に示す

混合量を表1に示す

0.30g

0.40g

10.00g

10.00g 9.10g

合計が100.00gとなる量

で均一に延ばす。40℃で30分間作用させた後に、こ の毛髪を生温い水でゆすぎ、その後、乾かせる。

[0061]

b 1. 脱色ゲル:
アスコルビン酸 5. 00g
メチルヒドロキシエチルセルロース 1. 50g
(ドイツのヘキスト社製のTylose MHB 10.000P)
システイン 2. 00g
グリオキシル酸 0. 50g
クエン酸三ナトリウム塩二水和物 0. 30g

	水	合計が100.	00gとなる量
[0062]			
-	b 2. 脱色ゲル:		
	イソアスコルビン酸		5.00g
	メチルヒドロキシエチルセルロース		1. 50g
	(ドイツのヘキスト社製のTylose MHB 10.	OOOP)	8
	システイン	00017	2. 00g
			0. 05g
	亜硫酸ナトリウム		•
	グリオキシル酸		0.50g
	クエン酸三ナトリウム塩二水和物	4.71.44	0. 20g
	水	合計が100.	00gとなる量
[0063]			
	b 3. 脱色ゲル:		
	アスコルビン酸		10.00g
	ヒドロキシエチルセルロース		1.50g
	グルタチオン		1.00g
	グリオキシル酸		0.50g
	クエン酸三ナトリウム塩二水和物		0.90g
	水	合計が100	00gとなる量
[0064]	20	пии гоо.	
[0004]	b 4. 脱色ゲル:		
	アスコルビン酸ナトリウム		6 00 7
			6. 00g
	クエン酸		6. 00g
	ヒドロキシエチルセルロース		1.50g
	グリオキシル酸		0.50g
	水		00gとなる量
【0065】上記の	脱色ゲルの p H値は、2. 5 ~ 3.	[0066]	
5の間である。			
	b 5. 脱色ゲル:		
	イソアスコルビン酸		6.00g
	メチルヒドロキシエチルセルロース		1.50g
	(ドイツのヘキスト社製のTylose MHB 10.	000P)	
	システイン		2.00g
	α - ケトグルタル酸		0.80g
	7k	合計が100.	00gとなる量
【0.0.6.7.】 上記の	p H値は、クエン酸三ナトリウム塩	[0068]	8
	. 5~3.0に調整する。	[0000]	
	. b 6. 脱色ゲル:		
	アスコルビン酸ナトリウム		5 70 a
			5. 70g
	L - システイン		2. 00g
	硫酸マグネシウム		1. 00g
	クエン酸		7. 40 g
	クエン酸三ナトリウム塩二水和物		1.00g
	ヒドロキシエチルセルロース		1.50g
	2 - オキソグルタル酸		0.80g
	水	合計が100.	00gとなる量
[0069]			
	b 7. 脱色ゲル:		
	アスコルビン酸ナトリウム		5.70g
	L - システイン		2. 00g

硫酸マグネシウム クエン酸 クエン酸三ナトリウム塩二水和物 ヒドロキシエチルセルロース グリオキシル酸

b 8. 脱色ゲル:

アスコルビン酸ナトリウム

L - システイン

硫酸マグネシウム

クエン酸

クエン酸三ナトリウム塩二水和物

ヒドロキシエチルセルロース

オキサロ酢酸

【0071】染色した毛髪上に、上記の脱色ゲルを塗布 して、それぞれ摂氏37℃で30分間(脱色剤b1~b 3の場合)、あるいは摂氏40℃で60分間(脱色剤b 4 および b 5 の場合)、あるいは摂氏 2 5 ~ 3 0 ℃で 2 20 0~60分間(脱色剤 b6の場合)、プラスチックカバ ーを掛けて作用させる。その後、水とシャンプーで完全 に洗浄し、必要に応じて水でゆすぎ、その後、乾燥させ

【0072】この脱色処理の結果が表1に要約されてい る。

[0073]

[0070]

【表1】

表1:03·及URB·05

Fa.	変色対/カップラー・総合せ	集合後の	6.00			展色-外
			L		ь	
LI	1,4-47!/-d-(p-t/m/s14)-	東京	未終四	0 % (#	:	
	**** **** * * * * * * * * * * * * * *		EL 29;	+6, 13	+35.68	
	1.4-17!/- 1 //11-1010 101=1	:				
	0,55 g		TER	:		
	5-71/-2-1/2-71/-4 : 9.41/2	ı	21. 24:	+10.8	t; 48.85	
			b 24.	用いて	1回開始	t: #
			B. 65;	44.4	+14.49	
. 2	4-T11-8-(TU#4)-7sJ-6	11/9B	未約四	の名乗		
	報酬数: 1.06 g 5-7ビ-1-76-75/-か: 0.61 a		87, 29;	11, 38	: 115.00	
	**************************************	,	neg.			
			84. 23 7	414.8	1; +14.00	
			110	用いて		t: N
		•	ST., 57 s	14, 55	+16,71	

[0.074]

【表2】

1.00g

26

7.40g

0.60g

1. 50g

0.50g

合計が100.00gとなる量

5.70g

2.00g

1.00g

7.40g

1.00g

1.50g

0.70g

合計が100.00gとなる量

Sa.	製色剤/カップラー・組合せ トニトロ的料	数色をの 内臓		K- 43
	A-15-994		L 1, b	
1.8	4-12-4-56 7J-4: 4.61 a	20	未的现在名誉:	
	3寸가→ : 0.31 g		81,20; +0,16; +35,40	
	5-71/-1-175-7-J-0: L21 s			
	4-(213-12-th/0)31/ 31-		禁抱牌:	
	「ACE-CFロウエドバフングーターニトルー マイア・地震地(2027年) 20。		30, 42: +30,43: +7,86	
	110 : 0,5 g		も1を用いて1回扇色	#: EL
			81. T2; +L 20; +14, 98	
1.4	4-17)-3-1404-4 : L:92 g	中枢体	*#650E# :	
	1-171-9:0.20 8		BL 41; H, 37; HR, 76	
	2-73/-4(C2-EF017379)73/]-			
	737-9 1872-9 : 8,61 s		章色表:	
	5-71/-0- <i>910</i> 7-J-0:128 g		23.621 +8.651 +8.67	
	BC #- No.13: 1.00 g		5 8を狙いて 1 回饋色	M: 00
			美. 奈, +6.66; +12.65	١.
L S	Leftham.	油井 .	- ASEO 64 :	- (
	40/D/097a-h: 8.8 g		84.41; +7.27; +LE.76	1
	570-5-110:/-a:120 a			
			RCB:	

(1005), MT) R: EL SE; +0.18; +14.56

[0075] 【表3】

#1 (#A)

IL	駅色剤/カップラー・総合セニトロ集例	取合理の 色質			ъ	BB·N
	4.6-971/-1-(3-t)mb=//)-		<u> </u>			
٠.	11-07-0 : L1 : 5-10-0-0000-0 : L0 :	D77 - #				
	_	•	-	:		
			RQ;	122 8	2; +1K 90	
			b 4 €/	BINT		79
			coco.			
	•		2.87:	+13. E	2: +1% OB	
ŁŦ	L.+-17U-0-(B-t/04x14)-		***	D-6-22	:	
	4767-2875-F : 1.25 g 6-(3-(3082)67)-1, 9-71-27-		84 41;	47. EF	+13.78	
	門7-二編版法:1日 #		-	:		
			18.71;	10 TO	-215	
			D4#1	JV-C	EBLA	
			Œ9Ð.			
	•		22 St;	+10. E	; 112 90	
1.0	4-181-8-51874-9 : 1.03 E	****	水松田			
	1-17トル: 0.数度		8 4.4 1;	+1. 27	+33, 18	
	まていってのようのかのうかり-		508	!		
	1=1-0 M7±-0 : € 61 €		28 18 ₁ -	+ LE., 25	; 411, 13	
			64€ £	lire:		76
			CHĐ.			
			3L III)	L 41,	+14 10"	

[0076]

ŧ

【表4】

R1 (RE)

表1 (表8)

Pa.	原色別/カップラー・基合せ ニトロ発料	数数をの を開	ean L	•	•	RB·N
1.0	1.4-71/-1-91-00-	220	***	-		
	M71-1: 0.83 g				+18.78	
	2-150-1-170-0-710-1 : 4.5					
	5-17/-a-//6/	-	-	:		
	•		21. T4;	+£ 61	; -4. 53	
			64 4 /	BIT	1000	80
			(#25)	40°C	a :	
			B. D.	14. (3	: 414.40	
L 19	i.+*************	*5	*453	022	:	
	ベロールフェート: L3 g 6-(GL B → 17304×190)-7(/)-		BL ED:	-L 88	1 +0.81	
	2-110-74/-0 : LB #		10 PM	:		
			M. M.;	+18,8	4 -4.00	
			b 4 6	買いて	1 6 6 6	
			(505)	. arc) #:	
			TEL ED:	+ D. 53	1 HR 61	
LI	L 1.477U-1-1914TO- 1	84:4	*	D & SE	:	
	MOST : 0,50 g 4,5-672/-1-(0-1920)		H. Alı	H. 17	: +L2.T8	
	U-5fo: 48 s		100			
	6-FU-R-1987-1-1: 0.02 s			•	9: 15.29	
			44, 14,		e, rJ. 13	

£1.13; H4.99; H2.29 b 4を用いて1回数色 (90分、40℃) 後: 部、41、11、85; +14、84

[0077] 【表5】

Ħa.	版B充ビタップラー・総合せ	収色数の 色刷	E t	MA-X
1.11	1,1-171/-0-171-00-	286 8	##JBC 包括:	
	Ma-1: Lilg L477U-2-(I-Linivita)-		31.9; +7,0; +11	.7
	OD-27:1: L25 g		RER:	
	1-7U-4-415-7-J-4 : 0.15 s 1-8-7Q-4-37U7-J-W)-740		姓名 机助土	•
	1.74 g		しまを思いて1 回	E : 11
			EEL E2 +0.0; +18	.1
1. 18	1,4-711-2-754-00-		州(周06里 :	
	130 m): 1.10 g		81. 1: +0.T: +11	. 2
	1,4-771/-0-C3-E[12]72(4)-			
	OD-202-1:125 E		叙四章:	
	1,0-f(1,4-f(7,17,4+)-7+0		18. Br +0.6; -1.	,
	LTAS		b 1を思いて1回	到色集: 20
			EL B; 18.0; 111	. L
L 14	1.441U-841100-	With	未代据O长度:	
	10r): 1.18 g		31.6; +6,8; +10	.9
	14-410-0-(2-110年10)-			
	OD-MIT-): 125 g		Rea:	
	\$-121-0-595-7-I-0: 0.25 g		14.5; +0.8; -1.	•
	114 #		ちまを用いて1 日	1917A : 12
			83. 0; +B. 0; +12	

28

【0078】実施例2.1~2.7:白くなった毛髪に 対して、実施例1に記載の方法(染料前駆体の濃度: 0.05モル/リットル)にて染色を行う。

【0079】脱色は、脱色ゲルb1またはb2を使用し て行う。

【0080】染色した毛髪に上記の脱色剤を塗布して、 それぞれ摂氏37℃で20分間又は30分間、プラスチ ックカバーを掛けて作用させ、その後、水とシャンプー で完全に洗い、水でゆすぎ、その後、乾燥させる。

【0081】上記の染色および脱色処理の結果が、次の 表2に要約されている。

[0082]

30

40

【表6】

Bb.	朝年用/カップラー・基合せ ・	製造数の 性質	保急期	東西 中間 (分)	Rero es
11	1.8-771/-8-714087-1872-} ; 1.8-76149-047	ÆÐ	Ьì	20	民灰色
12	1.4 -711/-2-714 0 8/- 337 ₈ -4 : 1-77 1-4	278	b 2	23	RB
1.0	1.4-97 <i>U-8-891-</i> 00-2072-} ; 8-7 <i>U-1-Alb-8-UNTU</i> }- E899	RFA	ьı	-	神名 がかった名
2.4	4,5-07(J-3-(p-1)ninate)- 18-075-e ; 1-771-e	扱い 7月7日 2月7日	b 1	*	KEB
25	1,4-07U-8-(3-t 10812 4)- 	450	ъз	D	
26	4,8-97U-1-(2-1;00x16)- 13-564-1 3-7U-4-(3-1;00x15)7U]- 7:3-6-U) ₂₋₁	## <u></u>	51	10	説い 申報告
11	47U-+ <i>H</i> +7J-+ (1, 01 II) ; 1-77-7 (1, 14 II) ; 5-7U-+74-7J-+ (1, 01 II)	NACO.	P 2	80	#:5

【0083】実施例2.8~2.33:白くなった毛髪 に対して、実施例1に記載の方法(特にとこわりのない 限り、染料前駆体の濃度は0.05モル/リットルであ 50 る) にて染色を行う。脱色は、脱色ゲルb9.1を使用

して行う。

[0084]

b 9. 1. 脱色ゲル:

水

5.60g アスコルビン酸ナトリウム 1.50g メチルヒドロキシエチルセルロース (ドイツのヘキスト社製のTylose MHB 10.000P) 2.50g システイン・ヒドロクロリド 5.00g クエン酸

20

【0085】染色した髪に上記の脱色剤を塗布して、そ れぞれ摂氏37℃で20分間又は30分間、プラスチッ 10 2を用いて処理し、水でゆすぎ、その後、乾燥させる。 クカバーを掛けて作用させ、その後、水とシャンプーで

b 9. 2. 後処理剤

セトリモニウムクロリド (50%) グリオキシル酸(50%) ヒドロキシエチルセルロース クエン酸三ナトリウム塩二水和物 水

【0087】上記の染色および脱色処理の結果が、次の 表2aに要約されている。

[0088]

【表7】 数1.1 kt. 及/RA: 0.8

b.	観色剤/カップラー・報合せ	を を を を の を の の の の の の の の の の の の の	H.O.C.		脱色後の 登開
	4-T(U-8-F 31zi-9 ; 8-T(U-8-F 31zi-9 ; 1-1-1-1-1-1-1-1		bal ki bas	7 10	ERB
L 0	1,4-71U-2-119-02-1191-1 8-7U-4-[(3-17-02-11971)]- 7=3-4-1191-)		bat		
L 1	1.4-77U-3-1990(0-357i-); 9-7U-7-U-1	**		Ø 11	
E 1	1,4-971/-2-/90010-707;-1; 5-[(3-(104)439)71/]-1.8- 4/947-8- 福昭族			Ø 84	en.
9 1	1.4-776/-2-784087-3071-}; 1,3-717414-2-784-10-D	#6	bri R bri	♂ ↔	施·常 色
2 1	3 4-7¥-3-196-7±1-6 ; 8-7¥-18-7±1-6 ;	PILE	bal R	· #	解色
2.1	4 1,4-77;J-8-5960(1)-367;-}; 1,8-9(2,4-9);U7;J49)fally				高いなりが 自実策
1	3 4,5-771/- i- (3-1/3-1/3-1/3-)- 11-13-7-12-14	ms	b\$.1 # b\$.5	U a	MES

合計が100.00gとなる量

完全に洗い、グリオキシル酸を含有する後処理剤 b 9. [0086]

> 1.00g 1. 00g 1.50g 0.30g

合計が100.00gとなる量 ***・(Ref)

Fo.	駅色科/カップラー・報合せ	設合後の 色調	2.20 株合25 円件 · 中代 (化)	数数 を を
8. (15	4,6-17(/-1-C)+(R\$278)- 18-55-9 : 8-11/-2-/-9	#E	brire m	1819
2.17	4.5-77U-1-(\$-t op:170)- 18-15f-6 ; 8-7U-4-14 0-3-5917U- 190	ARE	balke w	教系色
£ 13	4.5-97U-1-(3-thols:93)- 18-979-9 ; 1.5-8this-8-88-599	**	brigg m	得い パラ色
2, 10	4-7シフェン・+ 8-7シ -2-278- フェン・+		bil av m bli	細胞
2.20	1.4-77U-0D ; 5-1U-1-781-7-1-4	#A	ba.1 RU m bs.1	東京
10	2,4,3,8-7 7 10(87-30-) 6-10-6-14-72/-8	2 WB	56.1 RV 29 59.2	糖色
12	2.5-7円/-4-7科-7-ゴ-8- 二塩原塩 8-7ジ-3-7(8-7)J-3	ATE	69.1 RF 10 19.1	灰色
12	3 4-7 U-8-H87sJ-9 : 8,4- 7 RJ-8-H87sJ-8	皇英色	68.1 RF 10 68.2	意.·

[0090] 【表9】

[0089] 【表8】

RI = (RT)	
-----------	--

66、 間含剤/カップラー・組合せ	から改む 化原		RB (信 (分)	ntho th
114 1,4-770-0-1900001-1-1-1 1-70-4-H67-1-0	#8	bli Ro bli	81	696
2, 53 4, 6-97(7-4-(3-4)1-85x(6)- 18-87-8 : 8-(8-4(10)92(6))7(7-7-4-4	雅() 杂色	bei Mo	*	部) /*75
2.28 4.6-971/-4-(3-4(piezis)- 18-675-5 ; 6-(3-4)04236)- 71/-6-49874-6			•	那的
131 471-4-11924-9 : 8-71 1-1-116- 74-8	表1veg 計分	bli Ru bli	m	148
1 28 4,5-67(/-1-C3-1(0/52(s))- 15-675-1 2-678-1-17(-5-70)-1	推り 付き数	bel Ru bei		MD: MDB
13 1.47000 i 1,3-7000	488	bei Ru bei	•	REG
1.86 1.4-971/-4-(3-1(3-0)-1/3)- 	272	bli ko bli	n	RD.

[0091]

【表10】 *** (第8)

Fa.	頭色剤/カップラー・単合せ ニトロ発売	教主徒の 性質	・ 信用定性
2.31	1.4-71)-2-14-00- 2072-1-1: 0.44 g 4-71)-0-171721-1-1: 0.11 g	Ru	#A5000 528 : 81.28; 46.30; 415.88
	1,4-17U-1-(p-t)(e)(p1)(p) 10D 二地田地: 0.48 g 5-1U-1-101-10-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1		京四級: 11. 11; +4. 61; +3. 53
	elo-sala se el 1		bl.1 長びbl.2 を思いて TB 1回路改装 : 23.77: 41.87: 41.80
1.0	1,4-11U-2-119UU- 217 ₂ -1 : 0.22 g 4-1-10-1-1192-4 : 0.00 g	# B	米の理りを発: は、約7 -4、約1・11、40
	8-1V-9-71-71/-0 : 1.63 (1	新四級: 47. 197, 161, 46; 181, 56
			b&1 及びb9.8 を用いて 10 10更数表: 10.66: 46.50; 415.74
2.81	1.4-FTU-9-//6-00- 207:-1-1: 0.00 g 9-FU-4-(0-1-000299)-18/	HRA	AMED-64: 84-41; +1.57; +15.70
	123-4-2071-1 : 4 - 4 : 8 4-7-2-111/000 : 0. 43 : 8 8-7-2-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1		地区版: 21. 22: +4.65: +8.90
	L15 ₁		b 1.1 長びb 9.2 を聞いて 28 1 原理的後: 61.67; +1.68; +13.67

【0092】実施例2.34~2.36:白くなった毛 髪に対して、実施例1に記載の方法(特にとこわりのな い限り、染料前駆体の濃度は0.05モル/リットルで ある) にて染色を行う。

【0093】脱色は、実施例1.1~1.14に記載さ れる脱色ゲルЬ6、Ь7またはЬ8を使用して行う。後 処理については、実施例2.8~2.33のb9.2の グリオキシル酸を含む薬剤を使用する。

【0094】染色した毛髪に、上記の脱色剤b6、b7 またはb8をそれぞれ塗布する。摂氏37℃で30分 間、プラスチックカバーを掛けて作用させた後、この毛 髪を水で完全にゆすぎ、グリオキシル酸を含む後処理剤 10 b 9. 2を用いて5分間処理し、水でゆすぎ、その後、 乾燥させる。

【0095】上記の染色処理および脱色処理の結果が、 次の表2bに要約されている。

[0096]

Eb.	正正元/カップラー・製合せ ・	Daro em	ente L & b	教を
1 24	1.4-77U-0-794-17>-	-	未必要の毛織:	
	750=1:1:10 a 1.4-77U-2-C:-1=8719)-		EL 8; +7.0; +1L 7	
	©£7 297±+ : 1.25 g		常色像:	
	5-73/-4- <i>710-71/-4</i> : L 55 (L.8-7(), 4-9(1/1-1/W)-700		22. 4; +Q. 2; -L. \$	
	1.14 g		84 年度いて1度回復	2 24
			884 を用いて8分回	
			****** *** *** *** *** *** *** *** ***	
			(M. 0) TE, 0; TEM A	
12	14770-14900-	RES	未把30.6位:	
	3872-1 : 1.10 € 1.4-771/-2-(3-18-49-14)-		EL 1: 46.T: 4LL2	
	OU ME : LES		866 :	
	3-47-1-178-7-1-0: Q E 1		18.8: +8.8: -L.1	
	1,8-7(3,4-77 <i>U7±1</i> 9)-7NO	:		
	L74 g		bt も用いて1回転機	
			bls をおいて3分間	
			MACE: El.9; +6.0; +(1.1	
			erial seral series	
1.81	L4-711/-3-/19-00-	MED.	連続回りを受 :	
	207x->: 1.10 g		82.6; HL.8; HD.9	
	L 6 - P ?? J - G- (B- t Pot) - I j-			
	40€2 207a-4 : 1.23 g		©@ 1 *	
	5-7U-8-796-721-6: 0.35 (21. 5; 10.0; -5.0	
	LT4 g		bs を用いて1回費品	R 81
			bas を用いて 6分間	
			QASE:	
			\$2.0; 10,0; 1 <u>12.0</u>	

【0097】実施例3.1~3.32:白くなった毛髪 に対して、実施例1に記載の方法(染料前駆体の濃度: 0.05モル/リットル)にて染色を行う。

【0098】脱色は、次の薬剤を使用して行う。 [0099]

A: 脱色ゲル (実施例1のb4に相当する)

アスコルビン酸ナトリウム 6.00g クエン酸 6.00g ヒドロキシエチルセルロース 1.50g グリオキシル酸 0.50g 水 合計が100.00gとなる量

【0100】この脱色ゲルのpH値は、2.5~3.5 の間である。

【O 1 O 1】 B:脱色溶液:	
アスコルビン酸	1 O g
グリオキシル酸	0.5g
完全脱塩水	90 g
合計	100g

【0102】C:脱色バルサム:

	セチルステアリルアルコール	4.	5 0 g
	セチルラクテート	0.	50 g
	ジメチコン	0.	50 g
	セチルトリメチルアンモニウムクロリド	0.	6 5 g
	グリオキシル酸	0.	50 g
50	アスコルビン酸	6.	0 0 g

合計が100.00gとなる量 完全脱塩水 【0103】この脱色バルサムのpH値は、NaOHの 2%水溶液を使用して2.5に調整する。

【0104】D:脱色泡:

セチルステアリルアル	コール	1.	30 g
PEG-35ひまし油		0.	47 g
セチルトリメチルアン	モニウムクロリド	0.	9 4 g
アスコルビン酸		6.	0 0 g
グリオキシル酸		0.	50 g
完全脱塩水	合計が100.00	g と	なる量
プロパン/ブタン(5.	バール)	6.	0 0 g

【O105】この脱色泡のpH値は、クエン酸三ナトリ ウム塩二水和物を使用して2.5に調整する。

【0106】毛髪を40℃で20~60分間、この脱色 剤で処理し、引き続いて、水とシャンプーで完全に洗 い、その後、乾燥させる。

【0107】上記の染色および脱色処理の結果が、次の 表3に要約されている。

[0108]

【表 1 2 】 表1:\$6-表188-表1886-85

ile,	原色剤/カップラー・総合せ	単色性の 性質	(102)		副色表の 色質
8,1	4-7-U-6-5987-J-# ; 9-7-U-4-(3-4-5943-69)7-LJ- 7-3-6-387-2-#	ERR	9	44	表別
6,8	1.4-771 /-2-79-00 7472+); 8-71/-4-(8-15-1478)711- 1-14-1471	FE 5	В	68	病》 灰質色
	1,4-17U-8-415-02:0014-1-1			(S	
	L4-97U-2-994-0103012-} ; 8-7U7U-9	強い 変量を	c	45	際い 非本色
4.5	L+17U-2-11+0D7M2-1 : L+17-4	EFA	· c	50	磨
*	1.4-07U-2-19L-07XXV1-1-; 2-7U-2-19-2-1937XI-; EUDY	R.EG	A	. 10	#8 .
11	La-のひ-3-5500での8	WAR D	¢	45	15
R .	LA-TU-2-HVOCOM;-1:;	素色	c	60	

[0109] 【表13】

So.	原色剤/カップラー・組合せ	rero e	鱼的	制色 唯間 (分)	東きなの 台間
K.	4-7U- 1-99 0-1-9 (6-7U-2-600-1-9	KEB	D	10	服我
2 10	4,8-97U-1-CE-EIDBIZES)- 1E-E77-8 ; 1-971-8	置い 分が色	B	45	パラ色
8.11	4.6-かい-1-(2-154かから)- 15-かが-4: 3.5-1747-4-74が-安原管理	が日本 ・大小が日	8	68	保い ペラ島
ŧ II	1,4-57U-8-(3-t m s-278)- -0/D3013-b; 6-7U-8-578731-b	最い常色	A	19	用)。 用品
2.13	48-771/-1-(1-170)==18-771/-0-77	erete.	•	*	用い パラ島
4.14	4.5-471/-4-(2-4)minute)- 18-67-4 (2-43171/-4	#	A	10	育八 質灰色
2.11	45-77:J-1-(2-1/14/196)- 18-77:A : 8-72- 1- -747-1-747/U-	有味のある 果色	В	50	F

34

[0110]

【表14】

ia。 原色剤/カップラー・組合せ	発色後の			発色表の 合質
8.10 4,8-7(U-1-(3-tREPLIE)- 13-(3-4-4- 8-7U-4-(3-tREPLIE)(U- 7:3-6331-)	87 杂色	В	68	強い 砂ト金包
1 (1 45-97)-(-(1-thibas)- 18-8)-0 : 1.8-8(18)-0-(18-08)	#8	В	10	付け出
8.18 471777-0: 5-717-3-74071-4	無田色	A	20	658
E19 1.4-771/00 : G-TU-5-780-0-4	景色	A	45	程. 使灰色
19 2.4.8.3-91-77 (1957- 202-1: 5-71-0-0147-1-4	#B .	A	30	糖品
121 2.8-7(1)-4-1971/-4- 二年記憶 ; 5-7(1)-1-1971/-4	275		60	灰鱼
12 14771-3-188935-00 :	黄灰色	A	60	即将
8:25 4-70-8-7717-0-4 ; 1,4-77-0-8-787-0-8	RRS	٨	69	かり

[0111]

【表15】

40

Fs.	親白和ノカップラー・装合せ	教生数の 名称	Kan	明明(分)	を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	L O 1	12]		
124	1.4-671/-8-679-00/0072-) 8-71/-8-6872/-4	新色	A	60	##S				
FR	4.5-671/-1-(3-10-671/1)- 18-67-4 : 8-(3-1(10-671/1)/7/-7/-4	26 28	В	60	輝い パラな				
LD	46-911/-1-(3-100001)- 18-07-4: 0-(3-1000001)TU-q- 807-1-4	Man morts	3	•	piùP Mr				
1. ET	41인-3-위되니-3 / 51인-3-회의교-4	e interes		20	hets.	10			
1 m	4,5-97 <i>U-</i> 1- (3-1 106026)- 13- (3-6-1	表い 夕音		80	用い パラ色				
K, 23	1,4-110-00 / 1,8-110-00	276	A	10	東灰色				
A. 81	L4-17U-9-(3-1/087US)- 	476	A	20	用b 用b				
	4-7 <i>U-8-71971</i> -4 (0,002); 1-771-9 (2,000); 6-7 <i>U-8-71971</i> -9 (0,000)	からがか った感覚	^	10	ME.				
	実施の	间4:							
	酵素質	変化毛	髪染	料 (a)				
	ステフ	アリル	アル	コー	ル・ポ	, リコールエーテル	,		
	(=>	ステア	レス	(Ste	areth))	1.	4 0 g	
	亜硫酸	きナト	リウ	ム				0.10;	g
	ジナト	・リウ	ム -	エチ	レンジ	ノテトラアセテー	- ト	0.30	g g
	D - 3	ブルコ・	ース					1.00	- g
	グリセ	ヹリン						1.00	Ę
	イソフ	プロパ	ノー	ル				5.00	g
	1, 2	2 - プ	ロパ	ンジ	オール			2. 00	3
	1, 4	! - ジ	アミ	ノ -	2 - メラ	ベンゼンスルフェ	- - -	0. 02	5 M
	5 - ブ	7ミノ	- 2	- メ	チルフ、	ール		0. 025	5 M
	グルコ	コース	- 才	キシ	ダーゼ	1.1.3.4)	4	002=	ット
	パーオ	トキシ:	ダー	ぜ (EC 1.11	7)	4	002=	ット
		Mホ	ウ酸	塩緩	衝液(8.5) 合	計が100.	00g8	となる量
13]									
	脱色ケ	*ル (b 9.	1	に相当る)		•	
	アスコ	ルビ	ン酸	ナト	リウム			5.60) g
					チルセル			1.50) g
	(ドイ	゚ヅの・	ヘキ	スト	社製の1	se MHB 10.000P)			
	システ	イン	- Ł	ドロ	クロリ			2.50) g
	クエン	/酸		•	-			5.00) g
	水					合計	が100. (00gとな	はる量
14]						•			
					に相当す				
					リド(%)		1. 0	0 0 g
	グリオ							1. 0	0 O g
					ルロース			1. 5	6 O g
		酸三	ナト	リウ.	ム塩二ス	物		0. 3	3 O g
	水					合計	が100. () ハ σ と た	たる母
	上記の毛髪染							, o g c .c	N. O. AL

を、引き続いて上記脱色ゲルb9.1を用いて40℃に て20分間処理し、上記後処理剤b9.2を用いて2~ 3分間処理する。

37

【0117】その後、この毛髪を完全に洗滌し、乾燥さ せる。この毛髪は、その本来の色に近い色に戻る。 [0118]

38

実施例5: 2成分-脱色エマルジョン 成分1: セチルステアリルアルコール

セチルラクテート ジメチコン

セチルトリメチルアンモニウムクロリド

グリオキシル酸

合計が92.00gとなる量

完全脱塩水 成分2:

L - システイン

アスコルビン酸(粉末状)

合計

【0119】上記成分1を、使用する直前に上記成分2 と混合し、このようにして得られた使用の準備ができた 脱色調合物のpH値を、クエン酸三ナトリウム塩二水和 物を用いて2.5に調整する。

【0120】実施例6:脱色ゲル

8.00g アスコルビン酸

2.00g L-システイン

0.08g α-ケトグルタル酸

2.00g ヒドロキシエチルセルロース

0.50g シリカ

【0121】上記のpH値を、クエン酸三ナトリウム塩 二水和物を用いて2.5~3.0に調整する。この混合 物を、使用する直前に89.34gの温かい水と混合 し、充分に混ぜ合わせる。このようにして得られた脱色 ゲルは、酸化染料を用いて染色された繊維又は毛髪を脱 30 色するのに使用できる。

【0122】上記の実施例において記載されているL* a* b* - 色測定値は、ミノルタ社の色測定装置、タイ プクロマメータIIを用いて調査した。

【0123】この場合において、L - 値は、明るさを表 し(即ち、L - 値が小さいほど、色の濃度が大きく)、 一方、a - 値は、赤成分についての割合である(即ち、 a - 値が大きいほど、赤成分が大きい)。 b - 値は、色 の青成分についての割合であり、青成分が大きくなるほ ど、b - 値は負になる。

フロントページの続き

(51) Int.C1.6

識別記号

D 0 6 P 5/13

(72)発明者 クリステル ドゥーゼ スイス国、ツェーハー - 1733 トゥリボ ク、プリラツ(番地なし)

4.50 g

0.50g

0.50g

0.65g

0.50g

2.00g

6.00g 100.00g

【O124】値Dは、未処理の毛髪束と、染色又は脱色 された毛髪束の間に存する色差を示す。これは、次のよ うにして決定される。

[0125]

【数1】

$D = \sqrt{(L_1 - L_2)^2 + (a_1 - a_2)^2 + (b_1 - b_2)^2}$

【0126】上式にて、Lo 、ao 及びbo は、未処理 の毛髪についての色測定値を示し、Li、ai及びbi は、処理した毛髪の値を示す。百分率での脱色率は、次 のようにして算出した。

脱色 - % = 〔1 - (脱色後のD/染色後のD)〕×10

【0-1-2-7】本願にて挙げられている百分率はいずれ も、特にとこわりのない限り、重量パーセントを示す。 [0128]

【発明の効果】本発明の脱色剤を使用することにより、 酸化染料及び/又は直接染料で染色した繊維を、脱色ム ラなく、素早く、温和かつ均一に安定して脱色すること が可能である。又、繊維を酸化染色又は非酸化染色する ための薬剤と、この色を還元脱色するための薬剤とを含 む本発明の多成分キットは、繊維、特に毛髪を染色及び 脱色するのに好適である。更に、上記脱色剤を使用する 本発明の方法によって、酸化染料及び/又は直接染料で 染色した繊維を、脱色ムラなく、素早く、温和かつ均一 に安定して脱色することができる。

FΙ

D 0 6 P 5/13